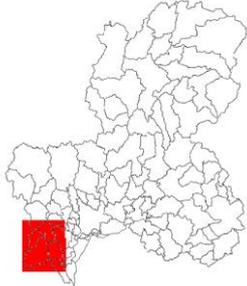


ウラボシノコギリシダ	<i>Athyrium sheareri</i> (Baker) Ching	絶滅危惧 I 類
		イワデンド科
選定理由	岐阜県では生育地。個体数共に極めて少なく存続の基盤が脆弱である。	写真(荻山恒弘)
形態の特徴	常緑性のシダ植物。根茎は長く這い葉質は硬い洋紙質。葉は単羽状複生でやや2形性になり孢子葉は少し高くなる。孢子嚢群は円形～楕円形。	
生態的特徴	林下のやや明るい乾き気味の場所に生育している。	
分布状況	県南西部の極めて限られた場所に見られる。	
減少要因	生育地の林下の光条件の悪化及び林道等の整備が要因と思われる。	
保全対策	生育地の林下の適度な管理と林道等の草刈等維持作業にも注意が必要である。	
特記事項	イヌワラビとの雑種のホクリクイヌワラビも見られる。また最近の分類ではウラボシノコギリシダ属として扱われることもある。	
参考文献	岩槻邦男. 1992. 日本の野生植物. シダ. P. 232. 平凡社. 東京. 倉田悟・中池敏之.(編). 1990. 日本のシダ植物図鑑. 6. P.582-591. 東京大学出版会. 東京. 邑田仁・米倉浩司. 2013. 維管束植物分類表. P. 41. 北隆館. 東京.	

文責: 荻山恒弘